

かがやく

2016年 OCTOBER No.9

福島県に輝く人と未来と文化スポーツのために

東邦銀行 教育・文化財団の活動

高校生のスポーツ・文化活動活躍支援助成	2
助成交付先対象団体と活動（平成28年度下期文化・スポーツ活動ほか）／ 奨学金事業について	3
源郷のこけし群 西田記念館の展示（案内・報告）	4
かがやく FLASH	
平成27・28年度助成団体の活動から	6
郡山マンドリンクラブ / 余目一輪車クラブ / 飯樋町田植え踊り保存会 / 県立平商業高等学校郷土芸能保存会	
SPOTLIGHT TALK 「県立岩瀬農業高等学校 馬術競技部」	8



平成26年度助成
県立好間高等学校
フラサークル
「ウイラニ・オーラパ」
(陽気なダンサーたち)



平成28年度助成
県立平商業高等学校
フラダンス愛好会
「平商 Mahaloa」
(ありがとう・愛)



平成28年度助成
磐城第一高等学校
フラ愛好会
「ブアラニ」(美しい花)

HIGH LIGHT

地域に輝く高校生の活動を支援！

東邦銀行教育・文化財団は、2年前より、震災復興と地域活性化の原動力となる高校生たちによる自主性と独創性が輝く活動への助成を行っています。フラダンスが地域のシンボルともいえるいわき地区の各高校では、震災以降フラ活動を通じ、自主的な活動として地域のイベントや祭り、高齢者施設、仮設住宅への慰問等積極的に行っています。(表紙の4高等学校)

他に今年度は、県立福島高等学校スーパーサイエンス部の好適環境水班、放射線班などに支援を行っています。



平成27年度助成
県立勿来工業高等学校
フラ愛好会
「Mauloa Laulea」
(永遠の友情)



公益財団法人 東邦銀行 教育・文化財団
<http://www.tohobankkyoikubunka.jp/>

TOPICS 助成金交付先対象団体と活動

東邦銀行教育・文化財団の助成金交付先対象団体について、1. 平成28年度下期文化・スポーツ活動（平成28年10月から平成29年3月までの期間に実施予定の文化・スポーツ活動）は次の16団体（助成金額190万円）、2. 地域の活性化に貢献する文化活動は次の2団体（助成金額20万円）、3. 高校生対象の文化・教育研究活動は次の2団体（助成金額20万円）に決定しました。（助成金総額230万円）

1. 平成28年度下期文化・スポーツ活動（決定）団体と活動名（文化8団体・スポーツ8団体）

団体名	助成対象活動名	開催日・開催場所	
文化部門	<p>プラス・アンサンブル輝響（ききょう）（福島市）</p> <p>北斗の会（福島市）</p> <p>福島木彫の会（福島市）</p> <p>福島市おかあさん合唱団（福島市）</p> <p>郡山マンドリンクラブ（須賀川市）</p> <p>喜多方市松の木女声コーラス（喜多方市）</p> <p>いわき地域学会（いわき市）</p> <p>ITPいわき演劇プロジェクト（いわき市）</p>	<p>プラス・アンサンブル輝響 第13回演奏会</p> <p>「福島自由人」第31号発行</p> <p>福島木彫の会 第32回木彫展</p> <p>福島市おかあさん合唱団 創立60周年記念演奏会</p> <p>第15回定期演奏会「午後のひととき」</p> <p>つなごう歌の輪・心の和・共生の絆 コンサート</p> <p>「いわきの地誌」出版</p> <p>市民参加の合唱劇「銀河鉄道の夜」</p>	<p>H28.11.6(日) 福島市音楽堂 大ホール</p> <p>発行日 H28.11.5(土)</p> <p>H28.11.9(木)～11.13(日) コラッセふくしま 3F 企画展示室</p> <p>H28.11.27(日) 福島市音楽堂 大ホール</p> <p>H28.11.27(日) ポラリス保健看護学院内</p> <p>H28.10.1(土) 喜多方プラザ文化センター 大ホール</p> <p>発行日 H28.10.1(土)</p> <p>H29.1.14(土)、15(日) チームスマイルいわきPIT</p>
スポーツ部門	<p>ファンキーモンキードリームス（福島市）</p> <p>レッツあさかスポーツ少年団（郡山市）</p> <p>須賀川東ミニバスケットボールスポーツ少年団（須賀川市）</p> <p>稲田ソフトボールスポーツ少年団（須賀川市）</p> <p>須賀川牡丹ソフトボールスポーツ少年団（須賀川市）</p> <p>相馬市インディアカ協会（相馬市）</p> <p>いわき市レスリング協会（いわき市）</p> <p>中神谷スポーツ少年団（いわき市）</p>	<p>ファンキーモンキードリームス ティーボール大会</p> <p>レッツあさかスポーツ少年団創立10周年記念大会</p> <p>第6回「たかしカップ」ミニバスケットボール大会</p> <p>稲田ソフトボールスポーツ少年団創立35周年記念大会</p> <p>第19回牡丹杯親善ソフトボール大会</p> <p>まけないぞ相馬 第6回 インディアカ大会</p> <p>記念大会（リオデジャネイロオリンピックアジア及び世界予選会出場記念）</p> <p>中神谷スポーツ少年団結成10周年記念大会</p>	<p>H28.10.30(日) 福島市南向台小学校</p> <p>H28.10.1(土)10.2(日) 郡山市田村スポーツ広場</p> <p>H28.10.1(土)、10.2(日) 須賀川アリーナ他</p> <p>H28.10.29(土) 須賀川市市民スポーツ広場</p> <p>H28.10.15(土)、10.16(日) 須賀川市市民スポーツ広場他</p> <p>H29.1.22(日) スポーツアリーナそうま</p> <p>H28.11.5(土) クリナップ(株)井上記念体育館</p> <p>H28.11.6(日) いわき新舞子多目的運動場</p>

2. 地域の活性化に貢献する文化活動（決定）団体と活動名（2団体）

団体名	助成対象活動名	開催日・開催場所
飯樋町田植え踊り保存会	福島県民俗芸能大会他参加、地元の中学生に伝承。	飯樋町地区郷土芸能の保存と伝承。
御宝殿熊野神社稚児田楽・風流保存会	いわき市錦小学校3年生に特別授業を実施。（稚児田楽風流について実演と実習他）	御宝殿熊野神社稚児田楽・風流の保存、育成、伝承。

3. 高校生対象の文化・教育研究活動（決定）団体と活動名（2団体）

団体名	助成対象活動名	開催日・開催場所
県立平商業高等学校 フラダンス愛好会	平商フラダンス大使ふくしまの復興を世界へアピールプロジェクト	いわき市内
県立平商業高等学校 郷土芸能保存会	いわき市の郷土芸能「じゃんがら」を継承。	いわき市内

TOPICS

当財団の奨学金事業について

1. 奨学生採用状況

平成28年度奨学生15名を採用し、昭和58年から現在まで447名に奨学金を給付いたしました。（平成24年に当財団が助成東邦育英会を引き継ぎました。）

2. 奨学生の状況（近況報告より）

平成28年度奨学生の抱負・目標等

- 将来、管理栄養士として医療機関で働きたいと思っているので、基礎医学や臨床栄養学等しっかりと習得したい。また、多くのことに挑戦し今後に生かせるようにしたい。
- 働きながら大学で学ぶので時間管理を適切に行い、大学では「一人の役に立つための方法」を学びたい。
- 大学では英語、フランス語をマスターし、海外留学、研修、ボランティア等様々な事にチャレンジしたい。
- 大学では近代物理学について探求するとともに、自分の真に行いたい事を見極めていきたい。
- プログラマーになるためプログラミングについて詳しく学ぶとともに、人との繋がりを大切に、「コミュニケーション能力を高めていきたい。

3. 奨学生の募集

平成30年度の新規奨学生の募集は、平成29年5月の予定です。

★お問い合わせは

公益財団法人東邦銀行教育・文化財団事務局
奨学金担当
TEL 024-523-5882

TOPICS

高校生の活動支援（新たな助成制度）「スポーツ・文化活動活躍支援助成」

1. 創設の趣意

(1) 「ふくしまの復興から成長への貢献」の一環として、ふるさと、県民に大きな感動と希望を与える原動力となる「県内高校生のスポーツ・文化活動活躍支援助成」を創設しました。（期間…5年間）

(2) 今年度より県も「復興推進ふくしまアクションプラン」として県関係選手の育成・強化を主に2020年東京五輪・パラリンピックまでの5年間実施することから、文化活動を含め連携して対応、気運を高めていきます。

2. 対象

- (1) スポーツ部門「表」参照
- (2) 「全国高等学校総合体育大会（インターハイ）」出場選手
- (3) 「全国高等学校定時制通信制大会」出場選手
- (4) 文化部門「表」参照
- (5) 「全国高等学校総合文化祭（総文祭）」参加生徒

3. 実施概要

- (1) 助成金額：出場選手、参加生徒一人当たり5,000円を助成します。
- (2) 助成期間：2020年までの5年間
- (3) 選考方法

A. 本制度は、助成対象大会、出場者を限定し、各大会出場前（毎年7月末開催）にタイムリーに支援を行いません。

B. 対象大会の出場者確定が6月末になることから、本件助成金は理事長の承認を得て決定し、交付いたします。

C. 対象大会のうち、スキー、スケート、駅伝等実施時期



全国高校総体男子バスケットボール初出場で県勢68年ぶりとなる4強入り（3位）を果たした県立福島南高等学校（写真提供：福島民報社）

【表：福島県内高校生のスポーツ・文化部門助成対象大会 出場選手数】

	スポーツ部門		文化部門	計
	出場選手数	参加生徒数	参加生徒数	
27年度	649名	88名	131名	868名
26年度	599名	90名	229名	918名

平成28年度本助成制度の実施状況

新たに創設した本助成制度に基づき、下記の対象者に支援、助成いたしました。

1. スポーツ部門

- (1) 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）
出場選手559名（30種目、学校数57校）
振込額2,795,000円
- (2) 全国高等学校定時制通信制大会
出場選手106名（8種目、学校数10校）
振込額530,000円
- (3) 全国高等学校総合体育大会（水泳）
出場選手10名（学校数6校）
振込額50,000円

2. 文化部門

- 全国高等学校総合文化祭（総文祭）
参加生徒152名（学校数34校）
振込額760,000円

3. 支援助成金合計

- 出場選手・参加生徒827名
振込総額4,135,000円



「2016ひろしま総文」小倉百人一首かるた部門団体3位入賞の県立安積黎明高等学校（写真提供：福島民報社）



原郷のほほえみ
原郷のこけし群 西田記念館
福島市荒井字横家 3-183 (アンナガーデン)
TEL 024-593-0639 / FAX 024-593-0811
http://nishidakinakan.or.jp/

開催中の企画展 ■平成28年8月～11月 世界をかけためぐる「こけし」 「メキシコこけし」展



メキシコこけし (ホルヘ カスティージョ)

こけしが海を渡り、海外で展示・販売されるということは昭和初期よりありました。古い記録では昭和14年にベルギーで開催された国際人形展にこけしが約30本出品されていたことが分かっており、出品目録には阿部常吉ら8人の工人名が記されています。

近年は東日本大震災による工人支援を目的にメキシコで展示・販売が行われたり、日本の伝統文化を紹介するフランスの展示会で実演が行われたりなど海外でも多くの関心を集めるようになってきました。しかし、こけしを紹介する外国語のガイドや文献は非常に少なく、国際的にはまだまだ知られていないのが現状です。

今回の企画展は、新たな海外文化交流の形として「メキシコこけし」を中心にこけしと世界の交流についてご紹介しました。「メ



メキシコこけし (アドリアーナ パウティスタ)

キシコけし」とは、メキシコの様々な先住民族が絵付けをしたこけしのことです。このプロジェクトは東日本大震災を契機に、メキシコ政府観光局職員との CHIDO PROJECT 志田朝美氏により2011年冬に始動し、東北発祥の文化「こけし」に復興の願いを込めて作られた「メキシコけし」の展示会が各地で開催されています。その作品は、木彫りの手工芸品に用いられる独特



伝統こけし工人がメキシコをイメージして作ったこけし

な色彩をこけしの木地に施したり、神話に基づいた模様を細かいビーズで飾ったりなど、豊かな色彩と細やかな技術が見られます。また、東北のこけし工人が挽いた木地にメキシコ先住民が日々の手工芸品作りの技法を活かした絵付けをする——そうすることで、東北のこけし文化とメキシコの伝統工芸双方の支援につながればとの願いも込められています。

この他にも、本展では伝統こけし工人によるメキシコをイメージして作ったこけし、こけしに似た世界の木地玩具、海外のこけし展の様子などこけしと世界の交流についてもご紹介しています。

世界の木地玩具

こけしは、ロクロを使って木を削り作られた木製の人形です。このようなロクロ製の玩具を木地玩具といい、かつてはこけしと共に独楽や笛など様々なものが作られていました。東北地方の木地玩具は箱根の影響を受けて発展し、大正期には様々な種類の玩具が作られていました。しかし、ブリキやセルロイド玩具の人氣が高まると徐々に作られなくなり、現在ではこけし以外ほとんど見られなくなりました。



インドの木地玩具



メキシコこけし

人形もご紹介しています。

■マトリョーシカのルーツは日本?!

ロシアの人形マトリョーシカの発祥には諸説ありますが、そのルーツは日本にあると言われています。モスクワの北東70kmの地点に位置するセルギエフ・ポサートの博物館にはマトリョーシカの見本とされる日本の木地玩具「七福神」が展示されています。この七福神は、マトリョーシカと同様、同じ形で大きさの異なるものを順々に中に入れる「入れ子」形式になっており、19世紀末頃にロシア人によって持ち帰られたものと言われています。

入れ子の玩具は、かつて日本では七福神以外にもだるまや弁慶などが作られていました。企画展では、ルーツになった明治期の入れ子玩具を今回特別に借りて展示しています。

このようなロクロ技術は世界各地にも見られ、木地玩具も独楽やけん玉など様々なものがあります。世界のロクロ製人形では、ロシアのマトリョーシカやドイツのくるみ割り人形が良く知られていますが、こけしのように手足がない丸い頭と円柱の胴というシンプルな形態は珍しいです。今回の企画展では、世界の木地玩具やこけしに似たロクロ製

平成28年度の企画展報告

4月～7月 「変化は進歩」を求めて ～美輪展25年の歩み～

「美輪展」とは、伝統こけし若手工人の親睦と創作意欲の高揚に努めることを目的に平成3年に発足した「美輪会」によるこけしの展示会のことです。美輪展は平成10年以降毎年7月に西田記念館を会場に開催され、今年は25回の記念の年を迎えることからその歩みを紹介しました。



美輪展限定セット 子持ちこけし

現在、美輪会は結成当初若手だった会員たちの多くがこけし界を牽引する存在となり、その技も円熟期を迎えますますます磨きがかかっています。仲間同士刺激し合い、新たな伝統を求め美輪展には毎年様々な作品が出品され、初日には行列ができるほど全国から多くのファンが詰めかけます。特に、限定販売される美輪会のセットこけしは毎年注

目されており、子守こけしや子持ちこけし、帽子こけし、こけし雛など様々なテーマのもと作られています。今回の企画展では、土湯温泉の「小滝旅館」のご協力によりこれまで販売された限定セットを一堂に紹介しました。

東邦銀行教育・文化財団では、平成29年4月から同29年9月までの期間中に活動計画のある「文化・スポーツ団体」を対象に、平成28年11月1日～12月30日まで助成申請の受付を行う予定です。
 ▶詳しくは当財団のホームページの「助成事業 | 文化・スポーツ活動団体への支援」をご覧ください。
 事務局 ☎(024)523-5882 までご連絡ください。



余目一輪車クラブは、一輪車を通してスポーツの知識・技術・態度を身につけ、心身の健康と体力の向上を図ることを目的に設立。対象者は幼稚園・保育園から大学生の男女。平成17年7月に結成。現会員26名。

「絆」をテーマにした室内一輪車演技の発表会で、日頃の練習で磨いた華麗な演技が披露されました。ソロの演技はクラブ員が自分で選曲し、構成を考え、親が衣装を作製

するとう、親子が二人三脚で作上げた表現の世界。一方、ペアの演技は監督やコーチが選曲・構成をし、2秒足らずで早変わりする衣装は親が担当、主に大会出場を目的として作られました。そしてグループ演技は、発表会を目標に監督・コーチの指導で作られた演技と、それぞれの成果をのびのびと発表しました。

クラブ員の演技と素敵な笑顔は観衆を魅了し、大きな拍手が送られました。「たくさんの方々が見に来てくれて、すごく緊張したけれど拍手をもらえてとても嬉しかった」とメンバーたち。大内会長が「今までになくらいともあたたかい発表会になりました」と言う。佐藤監督も「大会に出場した演目や地域の方に披露した演技、最後にクラブ員全員でテーマ『絆』の演技を、感謝の気持ちを持って発表できたことがうれしい限りです。これからも皆様に一輪車の演技に興味を持っていただくように頑張っていきます」と声をはずませ答えてくれました。

文化・スポーツ活動
平成27年度下期
助成団体
「スポーツ部門」

余目一輪車クラブ (福島市)
余目一輪車クラブ発表会

平成27年12月19日 (土) 余目小学校

東邦銀行教育・文化財団では、文化とスポーツの振興を図るため、地域に密着した活動をする団体に助成を行っています。今回は須賀川市の「郡山マンドリンクラブ」と福島市の「余目一輪車くらぶ」の活動、および平成28年度に助成を行う「地域の活性化に貢献する文化活動」で飯館村の「飯樋町田植え踊り保存会」、「高校生対象の文化・教育研究活動」で福島県立平商業高等学校「郷土芸能保存会」の活動をご紹介します

聴衆は「ころよい音節」
魅了されて…

当クラブは今年で創立30周年を迎えました。マンドリン音楽を通じて地域の音楽文化振興をめざし、病院や特別養護老人ホームへ出かけてポランテアコンサートを実施し、地域に役立つよう活動しています。

定期演奏会は、第1部はマンドリンオーケストラのためのマンドリンオリジナル曲、第2部は少人数編成のアンサンブル、第3部はポピュラー曲に加え当クラブのカラーでもある独自アレンジのメドレー曲の3部構成により、参加者25名で開催しました。

演奏楽器はマンドリン、マンドラテノール、マンドリンセロに加えて、ギター、コントラバスなどですが、聴衆はマンドリン特有のピックを使って演奏する音色に魅了されていました。

参加したメンバーは「一人だけの演奏では味わうことのできないハーモニーや『メグレスホール』の音の響きを楽しみながら演奏することができました



郡山マンドリンクラブは、マンドリンの演奏技術の向上と会員相互間の親睦を図ることを目的に設立。マンドリン音楽を通しての地域文化振興の活動も行っている。昭和62年8月に結成。現会員数20名。

文化・スポーツ活動
平成27年度下期
助成団体
「文化部門」

郡山マンドリンクラブ (須賀川市)
第14回定期演奏会「午後のひととき」

平成27年11月22日 (日) 星総合病院メグレスホール(福島県保健看護学院内)

「演奏会を重ねるたびに、次はこの曲を演奏してみたいという意欲が湧いてきます」とのことでした。聴衆の方の中には年1回の定期演奏会を楽しみに来場するリピーターも多いようで、現代表の熊田さんは「大盛況で、マンドリン音楽を通じた地域振興に多少なりとも貢献したと感じています」と顔をほころばせていました。

「地域の活性化に貢献する文化活動」
平成28年度助成団体

飯樋町地区郷土芸能の保存伝承

飯樋町大雷神社への奉納芸能「飯樋町田植え踊り」は、飯樋町に270年前から伝承されています。しかし原発事故により、当保存会の活動はいつたん休止に追い込まれていました。

平成25年、飯樋中が福島市飯野町に移転したのを機に、「教えてほしい」との依頼があり、1年生に歌や踊りの稽古をつけています。参加している生徒たちは独特の節回しや動作に苦戦しながらも、保存会の方からの助言を受けて上達しているようです。踊りを終えた生徒は「踊りを披露するたびに気持ちが引きしまり、ふるさとの伝統の大切さを感じました」



村の敬老会で田植え踊りを披露

「田植え踊り」が心の中に生き続けてくれることを願います」と見守ります。保存会顧問の荒さんは「3年間の指導で、発表する機会も多くなり、感謝申し上げます。生徒たちも達成感を深く感じたようでした。今後の人生に少しでもお役に立てばと思います」と伝承の手応えを話してくれました。

た」と話し、先生たちは「生まれ育った地域の歴史を知り、後世に伝えることは大切。決して絶やしてはならない」「生徒達が飯樋村を誇りに思い、『田植え踊り』が心の中に生き続けてくれることを願います」と見守ります。保存会顧問の荒さんは「3年間の指導で、発表する機会も多くなり、感謝申し上げます。生徒たちも達成感を深く感じたようでした。今後の人生に少しでもお役に立てばと思います」と伝承の手応えを話してくれました。



古民家をお借りしての田植え踊り

「高校生対象の文化・教育研究活動」
平成28年度助成団体

県立平商業高等学校郷土芸能保存会(じゃんがら) 女子だけで「じゃんがら」

じゃんがらは鉦や太鼓を打ち鳴らしながら新盆を迎えた家など供養して回る踊念仏で、いわき市の無形民俗文化財です。

当保存会は、じゃんがらを途絶えることなく継承する目的で平成2年から活動を続けています。週1回地域から講師を招き、技術指導を受けながら、伝統芸能を継承しています。

「女子だけで演舞しているのは本校だけであり、貴重な活動だと思って日々練習に励んでいます」と顧問の菊池教諭。



主な活動は、いわき市イベントへの出演や、福祉施設や老人介護施設や被災者が住む応急仮設住宅での慰問演舞など。夏から秋にかけて演奏の機会がピークを迎え、生徒たちは額に汗をにじませながらがんばっています。また、いわき市青年じゃんがら大会へも出場し演舞しています。

活動に参加している生徒は、「感動や感激の言葉をかけてくれる方、喜んでくれる方に出会ったとき、やって良かったと感じます。これからはがんばって、じゃんがらを継承していきたいと思います」と意気込みを話してくれました。

平成 28 年度県内高校生のスポーツ・文化活動活躍支援助成

県立岩瀬農業高等学校 馬術競技部 (鏡石町)



学校の馬場で騎乗する、右から高橋さん、遠藤さん、斎藤さん。
右端が藤田先生。

第50回 全日本高等学校馬術競技大会 優勝



「道のりはすぐくつらかったはず。よくついできてくれたと思う」と振り返る先生は、この優勝は自分たちだけでは成し遂げられなかった、と強調する。震災後、部活動を続けるだけでさえ厳しかった時期に、泥水を飲むような思いを共にし、支えてくれた先輩たち。練習と指導の機会を与えてくれた近隣の牧場の方々。第25回大会で全国優勝した時のOBの方の指導など、多くの方々の厚いサポートを数え上げ、深い感謝の念を語る。

周りに支えられた インターハイ優勝

兩上がりの馬場を、気持ち良さそうに馬たちが駆ける。ここは、第50回全日本高等学校馬術競技大会で見事優勝した、岩瀬農高馬術競技部の馬場だ。部員は11名。最上級生の3年生、高橋宇宙さん、遠藤元輝さん、斎藤山さんがチームを引っ張ってきた。「この3年生が新チームになった時に、全国大会で優勝する」という目標を掲げたんです。主役は子どもたち。自分たちで決めたことを後方支援するために、私たちはいるんです」とOGでもある顧問の藤田さんとみ先生。「一昨年、昨年と全国大会出場を逃して悔しかった、だから全国大会優勝という高い目標を掲げました」と3年生の3人は口を揃えた。



全国大会で騎乗する高橋選手

全員の思いがあったから、勝てた

馬術競技の団体戦は3人1組の「3名戦」。岩瀬はつづつ地道な戦いぶり、着実に勝ち上がった。決勝戦に臨んだのは3年生の高橋、遠藤の両選手、そして1年生の柴田祐紀選手。緊張の中、見事全員ノミスの減点ゼロで走行、全国優勝をつかんだ。しかしキャプテンの高橋さんは「馬に乗ったのは3人ですが、部員全員で一つのチームという思い、みんなの勝ちたいと思う気持ちで勝ったんです」と語る。たとえば斎藤さんは部員を指導したり、まとめたりと大きな役割を果たしてきた。試合に出ない部員たちが、どれだけの思いで負けないか、と思っているか、それが紙一重の差に出ている。部員全員で学びつづけてきたその思いが、優勝という形に結実したのだ。

「馬術の魅力は？」の問いに、高橋さんは「一瞬ですが、人馬一体になれたと感じる時があります。全国大会で優勝できたのも、競技中そんなことを感じることができたからだと思う」、遠藤さんは「自分の

操作で馬を操れるのが、気持ちいい」、斎藤さんは「最後まで走りきった時の達成感がいい」と語る。

馬術からの学び 今後活かして

馬術を通して、部員たちはよく考えるようになると藤田先生は言う。「どうしたら事が上手く運ぶか」「どうしたら馬に伝わるのか」など、馬に言葉が通じない分、自分の体の使い方、伝え方で馬とコミュニケーションをとる。「でも最終的には馬に教わる。そんな姿勢も身につけていないと一人よがりになってしまいます。他者の思いやりを、馬が教えてくれるのだという。

そして藤田先生は「全国大会に出て、どこの学校もキャプテンの立ち居振る舞いが違うな、きつと背負っているものが違うんだなと感じました。すごく格好良かったですよ」。覚悟を決めて、正々堂々と、凛として走行している各校の生徒たち。そんな中で勝つてくれたことが、とてもうれしかったと振り返る。「高校馬術は、技術だけでなく、馬から下りたあと、その経験をどう活かせるかが大切です。磨かなくてはいけない人間性、感性、想像力、そして気持ち(態度、矜持)も大切。「今回の優勝は本当に紙一重のものでした。この優勝は授かりものだと思う、今後にどうつなげていくかが大切ですね」。その3年生たちを送り出して、チームが生まれ変わる。新年度に向け、人間性の魅力も含めた、新しいチームづくりがすでに始まっている。

編集後記

この夏は、特に熱い(暑?)寝不足の夜を過ごされたのではないのでしょうか! リオオリンピックと同時期、高校生達のスポーツ・文化の全国大会が、中国地方(広島、岡山県)で繰り広げられました。県内高校生も本誌で紹介した岩瀬農高馬術部の全国優勝をはじめ福島南高バスケット部、安積黎明高かるた部など各部門で立派な活躍を見せてくれました。当財団では、今回新たに創設した助成制度ほか県内のスポーツ・文化部門の活動に対し、出来る限りの支援を行って参ります。(KK)

かがやく◎ 平成 28 年 10 月 10 日発行

発行所 公益財団法人 東邦銀行 教育・文化財団
http://www.tohobankyoikobunka.jp/
〒960-8041 福島市大町 4-4
電話 024-523-5882 FAX 024-523-3265

発行人 鹿野 幸一 ©東邦銀行 教育・文化財団
制作 株式会社 進和クリエイティブセンター
印刷 株式会社 日達堂印刷所